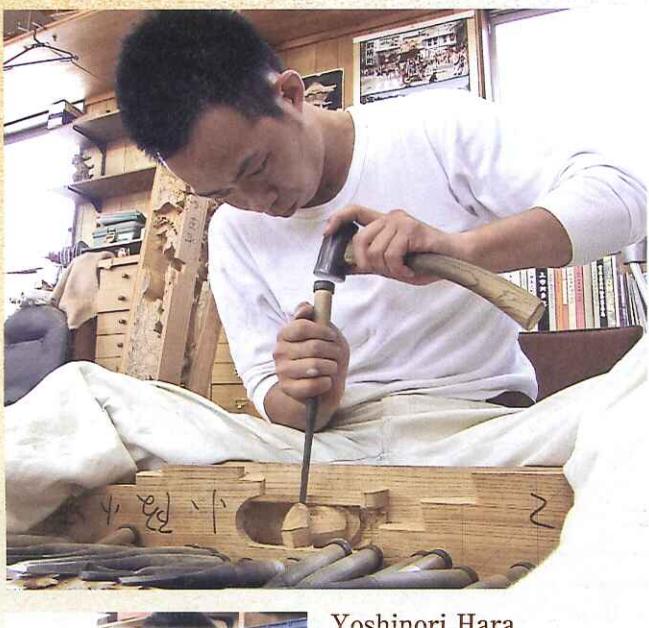


日本の伝統・文化を継承する若者たち

明日への扉



Yoshinori Hara

1983年大阪府生まれ。だんじり祭の本場・岸和田市で幼少時から祭に親しみ、高校に入るころにはだんじり自体に興味を持つようになる。高校を中退し、だんじり彫物師の第一人者である木下賢治氏に弟子入り。年季明けを許された今も修業に打ち込む。



だんじり祭

岸和田市や泉州大津市など、大阪府の泉州地域で毎年秋に開催。だんじりは町会が保有し、「岸和田だんじり祭」では通常、35台のだんじりを曳行する。同祭のルーツは元禄16(1703)年に五穀豊穣を祈願して始められた稻荷祭とされ、300年以上の歴史を誇る。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する
映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE パソコンやタブレット、CS放送など多彩にお楽しみください。

Web版
30人以上のバックナンバーがご覧になれます。
<http://www.at-home.co.jp/tobira/>

TV番組
ディスカバリーチャンネル(CS)
冠番組「アットホーム presents 明日への扉」放映中
毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン
ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!!  **最新号のご案内** **好評公開中**

No.040 / 伊万里焼・絵付師 川副 隆彦 氏

だんじり彫物師

原宜典氏

祭とともに生きる人たちを思い、
一刀、一刀に魂を込めて。

「そーりや、そーりや」の掛け声にのり、重さ4tを超えるだんじり（地車）が町中を次々に駆け巡る、大阪・泉州地域のだんじり祭。角を勢いよく曲がる「やりまわし」など、とくに勇壮な動きに目を奪われがちだが、祭の魅力はそれだけに終わらない。注目すべき

でもやはり自分には彌り物しかないと気付き、親方に再び弟子入りしたんです

原「町の皆さんのが楽しそうな顔を見たとき、一生懸命つくつて良かったと実感しました。その笑顔のためにも、もつともつと技を磨いていきたいと思います」

原宜典さんは、美術品を彷彿させせるような彫りを手掛けるだんじり彫物師だ。弱冠16歳でこの道に入り、今では親方の信頼も厚いが、その道のりには波乱もあつたといふ。

原「20歳のときに工房を飛び出して1年半ほど今の仕事を離れました。

ひたすら作業に明け暮れること2年。見事な彫り物をまとつただんじりが、持ち主となる町の人たちに引き渡される時がやつて來た。

その日、早朝にも関わらず、だんじりは大きな歓声とともに迎え入れられた。そして神職によつて魂を吹き込まれると、本番さながらの迫力で町中を駆け始めた。お披露目曳行のスタートだ。

**MOVIE
MORE!!**

だんじりを心から愛する人たちを
思い、仕事への誇りを胸に、明日への扉
を開け、また一步、夢に近づく。

※2010年9月取材。掲載内容は取材当時のものです。

は大きな歓声とともに迎え入れられた。そして神職によつて魂を吹き込まれると、本番さながらの迫力で町中を駆け始めた。お披露目曳行えいこうのスタートだ。

MOVIE
 **MORE!!**

だんじりを心から愛する人たちを
思い、仕事への誇りを胸に、明日への扉
を開け、また一歩、夢に近づく。

だんじりを心から愛する人たちを
思い、仕事への誇りを胸に、明日への扉
を開け、また一歩、夢に近づく。